

2014年度

# 事業報告書

2014(平成26)年4月1日



2015(平成27)年3月31日

2014年度事業報告について	…	1
<b>第一部 西南女学院の概要</b>		
1. 法人の概要	…	3
2. 設置する学校の概要及び教育目的	…	3
3. 主要行事	…	5
4. 宗教教育活動	…	6
5. 学生・生徒・園児	…	10
(1)志願者数 (2)在籍者数 (3)卒業生数		
6. 教職員組織	…	12
7. 役員・評議員	…	12
8. 理事会議案及び決議	…	14
<b>第二部 事業の概要・財務の概要</b>		
1. 事業及び決算の概要	…	17
2. 財務の概要(主な2014年度予算の執行状況)	…	19
(1)資金収支計算 (2)消費収支計算 (3)貸借対照表		
(4)学生数・財務比率などの推移		



## 2014年度事業報告について

2015年5月

学校法人西南女学院

理事長 田中 綜二

西南女学院は、1899(明治32)年から20年間にわたり熊本で宣教活動を行った米国南部バプテスト海外伝道局宣教師L. D. クラーク女史の祈り「日本婦人に教育と伝道を」を継承し、1922(大正11)年4月、米国南部バプテストの宣教師J. H. ロウ先生(1876～1929)によって「キリスト教に基づく女子教育を行うこと。」を目的として創立されました。以来、今日まで、皆様のご支援を賜り、2014年4月18日には、92周年を迎えることができました。ひとえに西南女学院を信頼し、学生、生徒、園児を西南女学院におくってくださいます保護者の皆様と地域の皆様の深いご理解の賜と感謝いたしております。

さて、大学では2010年に、大学短期大学部では2009年に文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関により、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況について評価を受け、それぞれ基準を満たしているとの評価をいただき今日に至っております。2013年度からは、更なる教育研究水準の向上を図り「西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部将来計画 2013～2015年度」を策定いたし、2014年度はその中間の年でありました。今後もこの計画についてPDCAサイクルを循環させることにより、大学及び大学短期大学部の一層の充実発展に努めてまいり所存でございます。

また、中学校・高等学校におきましては、様々なステークホルダー(利害関係者)の皆様に対して、教育内容や学校生活をより分かりやすくご説明申しあげることができるよう、ホームページを全面的に刷新し、シラバス(学習計画)を始めとする教育情報を積極的に公開いたしました。

なお、2014年度の事業及び決算につきましては、本報告書の「第二部 事業の概要・財務の概要」において詳細をご報告申しあげておりますとおり、教育研究における重点分野及び学生生徒の人員等について事業計画を立て、評議員会及び理事会において承認を受けて実施してまいりました。

西南女学院といたしましては、今日の就学事情や社会の構造的な変化に伴い、経営の安定化について、意識を強く持ち学校経営を行うことがより必要になったと考えておりますが、学生、生徒、園児並びに保護者の皆様からのご満足を頂けることを第一義とした教育に専心してまいり所存でございます。

これからも主のご恩寵に感謝し西南女学院でなければならない特色ある女子教育の実践に向けて、教育の質の向上、環境整備に努め、一人ひとりを大切にする教育に取り組む所存でございますので、関係の皆様には、これまで同様ご後援賜りますようお願い申しあげ、2014年度の事業報告とさせていただきます。



# 第一部

## 西南女学院の概要



## 1. 法人の概要

### (1) 建学の精神

# 「感恩奉仕」

「神様」をはっきりと心に覚えれば覚えるほど、私たちの心の中に“有難い”という感じが湧いてきます。父親や母親がどれほど有難いものか、この世界に生まれたことがどれほど有難いものかがよく解かってきます。“有難い”との感が起こると、進んで親のために兄弟のために、また社会のために小さい事でも出来る限り働いて差し上げようとの感じが起こってきます。この“有難い”という気持ちを、西南女学院では『感恩』といい、他者の為に働く事を『奉仕』といいます。

この理念は、学生・生徒・園児への教育理念であると同時に、西南女学院の教育活動に参画している全ての職員の職務理念であります。

西南女学院は、キリスト教に基づく使命感、優れた教養と知識と技能をあわせもつ女性を育成するために、各学校の一層の充実を図りながら総合的な学園として発展し続けています。

### (2) 沿革

1922(大正11)年	西南女学院設立(5年制高等女学校)
1938(昭和13)年	財団法人西南女学院設立
1946(昭和21)年	西南女学院専門学校設置(英語科・生活科)
1947(昭和22)年	学制改革により西南女学院中学校設置
1948(昭和23)年	学制改革により西南女学院高等学校設置
1950(昭和25)年	西南女学院短期大学設置(英語科・家政科)
1951(昭和26)年	学校法人西南女学院設立
1952(昭和27)年	西南女学院幼稚園設置
1958(昭和33)年	西南女学院短期大学保育科設置
1971(昭和46)年	西南女学院短期大学食物栄養科設置
1994(平成6)年	西南女学院大学保健福祉学部設置
2002(平成14)年	西南女学院大学保健福祉学部栄養学科設置(短期大学食物栄養学科を改組)
2002(平成14)年	西南女学院大学人文学部人文学科設置(短期大学英語科を改組)
2002(平成14)年	西南女学院短期大学家政科を生活創造学科に名称変更
2003(平成15)年	西南女学院短期大学英語科、食物栄養科廃止
2004(平成16)年	西南女学院短期大学を西南女学院大学短期大学部に名称変更
2004(平成16)年	西南女学院短期大学附属シオン山幼稚園を西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園に名称変更
2006(平成18)年	西南女学院大学人文学部英語学科及び観光文化学科設置(人文学部人文学科を改組)
2008(平成20)年	西南女学院大学助産別科開設

## 2. 設置する学校の概要及び教育目的

※括弧内の数字は2014年度収容定員

### (1) 西南女学院大学

西南女学院大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、キリスト教を教育の基盤として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性を涵養し、もって人類の福祉と文化の発展とに貢献する有為の人物を育成することを目的としています。

#### □ 保健福祉学部

保健福祉学部は、豊かな教養と倫理観を培い、看護、福祉、栄養の知識と技術を教授し、専門職者としての実践力と協働力を育むとともに、平和を愛する国際的視野をもって人々の幸福に貢献できる人材を育成します。

#### ■ 看護学科(340)

看護学科は、保健と看護の知識、技術を修得させ、人々の健康ニーズに応え、保健医療福祉の向上に寄与する人材を育成します。

- 福祉学科(320)  
福祉学科は、ヒューマンサービスの専門家として必要な知識、技術を修得させ、想像力と創造力のある福祉、教育及び保育の分野で貢献できる人材を育成します。
- 栄養学科(400)  
栄養学科は、「人」と「食」の両面より栄養を総合的に理解し、人々の健康に貢献できる管理栄養士及び栄養士を養成します。
- 人文学部  
人文学部は、豊かな人間性を養い、礼節を身につけ、専門的能力をもってグローバル化、情報化が進む国際社会及び地域社会において主体的に活動し、貢献できる人材を育成します。
- 英語学科(240)  
英語学科は、英語によるグローバル・コミュニケーション能力をもち、国際的視野と地域的視野に立って思考し、自主的に行動できる有能な人材を育成します。
- 観光文化学科(240)  
観光文化学科は、ホスピタリティのこころを育み、ツーリズム及びビジネス全般に有用な基礎的教養と専門的能力を備えた人材を育成します。
- 助産別科(16)  
助産別科は、助産の対象である女性、乳幼児及びその家族を全人的に理解するとともに、助産の知識と実践力を有し、専門職として自立した助産師を育成します。

## (2) 西南女学院大学短期大学部

西南女学院大学短期大学部は、キリスト教を教育の基本として女子に高い教養を授けるとともに生活に必要な専門の教育を施し、よき社会人を育成することを目的としています。

- 生活創造学科(200)  
生活創造学科は、個人から家庭さらに社会への繋がりの中で、生活の質の向上と人間の幸福に貢献し、豊かな知性と感性を備える自立した生活者を育成します。
- 保育科(300)  
保育科は、豊かな感性を有し、専門的知識と技術を備えた保育者を養成します。

## (3) 西南女学院高等学校 全日制課程 普通科(480)

西南女学院高等学校は、キリスト教に基づき女子の人格完成を旨とし、教育基本法、学校教育法及びその他の教育に関する法令により高等普通教育を行うことを目的としています。また、入学者のうち西南女学院中学校を卒業した者に対して、その中学校における教育とあわせた中高一貫教育（併設型高等学校）を行います。

## (4) 西南女学院中学校(240)

西南女学院中学校は、キリスト教に基づき心身の発達に応じて、女子の人格を養成することを旨とし、教育諸法令に則り、西南女学院高等学校における教育を合わせた、中高一貫教育（併設型中学校）を行うことを目的としています。

## (5) 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園(180)

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園は、教育基本法、学校教育法並びに幼稚園教育要領に基づき学齢未満の幼児を、キリスト教精神をもって保育し、適当な環境を与えてその心身の発達を助長することを目的としています。あわせて、西南女学院大学短期大学部の附属施設として、幼児教育に関する研究並びに保育科学生の実習機関としての役割を果たしています。

### 3. 主要行事 2014(平成26)4.1~2015(平成27)3.31

- |   |   |
|---|---|
| <p>4.1 新任職員辞令交付<br/>新任職員オリエンテーション<br/>理事会</p> <p>2 新任職員オリエンテーション聖書学課</p> <p>3 大学・大学短期大学部入学式</p> <p>7 大学短期大学部前期授業開始<br/>中学・高校始業式<br/>幼稚園始園式</p> <p>8 中学入学式<br/>高校入学・進級式</p> <p>9 大学前期授業開始</p> <p>14 幼稚園入園式</p> <p>17 第1回学院聖書学課</p> <p>18 創立92周年記念式</p> <p>5.13 大学短期大学部ミッションデー</p> <p>15 大学ミッションデー</p> <p>20 墓前祈祷会<br/>大学短期大学部ミッションデー</p> <p>22 大学ミッションデー</p> <p>23 後援会役員会・幹事会</p> <p>28 常任理事会、理事会、評議員会</p> <p>6.5 中学・高校ミッションマンス(6/5、6/12、6/19)</p> <p>13 後援会役員会・総会・新旧役員幹事懇親会</p> <p>25 後援会新役員会・幹事会</p> <p>7.2 常任理事会</p> <p>9 後援会交流会</p> <p>18 幼稚園終園式</p> <p>19 大学・大学短期大学部オープンキャンパス<br/>中学・高校終業式</p> <p>26 中学・高校オープンスクール</p> <p>29 大学短期大学部前期試験(7月31日迄)</p> <p>8.1 大学前期試験(8月11日迄)<br/>大学短期大学部夏期休業(9月9日迄)</p> <p>9 大学・大学短期大学部3大学合同<br/>オープンキャンパス</p> <p>12 大学夏期休業(9月7日迄)<br/>職員研修懇談会(事務・労務)</p> <p>19 職員研修懇談会(中学・高校)</p> <p>22 中学・高校始業式</p> <p>24 大学・大学短期大学部オープンキャンパス</p> <p>25 職員研修懇談会(大学、大学短期大学部)</p> <p>9.1 幼稚園始園式</p> <p>7 同窓会大分支部総会</p> <p>13 中学・高校体育祭</p> <p>18 第2回学院聖書学課</p> <p>20 大学・大学短期大学部オープンキャンパス</p> <p>26 常任理事会、評議員会、理事会</p> <p>28 中学・高校オープンスクール</p> <p>29 大学・大学短期大学部後期授業開始</p> <p>10.11 大学助産別科推薦入試<br/>大学短期大学部特待生入試</p> <p>16 第3回学院聖書学課<br/>中学・高校ミッションウィーク(18日迄)</p> <p>17 大学助産別科推薦入試<br/>大学短期大学部特待生入試合格発表</p> | <p>10.18 大学祭(19日迄)<br/>同窓会佐賀支部総会</p> <p>25 幼稚園運動会</p> <p>26 高校オープンスクール</p> <p>11.3 同窓会総会</p> <p>4 大学短期大学部ミッションデー</p> <p>5 学長候補者選考委員会</p> <p>6 大学ミッションデー</p> <p>8 大学短期大学部指定校・一般公募・卒業生子女・<br/>キリスト教信者・併設校推薦入試<br/>大学短期大学部社会人入試</p> <p>11 大学短期大学部ミッションデー</p> <p>13 大学ミッションデー<br/>大学短期大学部推薦・社会人入試合格発表</p> <p>14 大学一般公募・卒業生子女・<br/>キリスト教信者推薦入試、社会人・帰国子女入試</p> <p>15 大学指定校・併設校推薦入試<br/>中学・高校オープンスクール、西南音楽会</p> <p>21 大学推薦・社会人・帰国子女入試合格発表</p> <p>26 常任理事会・理事会</p> <p>12.4 第4回学院聖書学課<br/>学長候補者選考委員会</p> <p>6 同窓会関西支部総会</p> <p>11 中学・高校クリスマス礼拝</p> <p>13 大学助産別科一般入試<br/>幼稚園クリスマス礼拝</p> <p>17 常任理事会、理事会</p> <p>18 大学・大学短期大学部クリスマス礼拝</p> <p>19 大学助産別科一般入試合格発表</p> <p>22 中学・高校終業式<br/>幼稚園終園式</p> <p>25 大学・大学短期大学部冬期休業(1/4迄)</p> <p>1.5 大学・大学短期大学部後期授業再開</p> <p>6 中学校前期入学試験</p> <p>8 中学・高校始業式<br/>幼稚園始園式</p> <p>27 高校推薦入学試験</p> <p>31 大学短期大学部一般前期入学試験</p> <p>2.2 大学短期大学部後期定期試験(4日迄)</p> <p>3 高校一般入学試験<br/>大学後期定期試験(16日迄)</p> <p>4 大学一般前期入学試験</p> <p>10 大学短期大学部一般前期入学試験合格発表</p> <p>11 中学校後期入学試験</p> <p>13 幼稚園生活発表会</p> <p>17 大学一般前期入学試験合格発表</p> <p>19 第5回学院聖書学課</p> <p>3.3 高校卒業式</p> <p>4 大学・大学短期大学部一般後期入学試験</p> <p>11 大学・大学短期大学部一般後期入学試験合格発表</p> <p>14 幼稚園卒園式</p> <p>18 常任理事会</p> <p>20 大学・大学短期大学部卒業証書・学位記授与式<br/>中学・高校終業式</p> <p>23 幼稚園終園式</p> <p>24 理事会・評議員会</p> |
|---|---|

## 4. 宗教教育活動（2014年度宗教委員会報告より抜粋）

### I. 現状と展望

#### (1) 全体的総括

2014年度は、マタイによる福音書4章4節「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」を年間聖句に選び、年間主題を「み言葉に聞く」とした。

2014年度は女学院創立92周年、大学創立20周年の年であり、マロリーホールからの大講義室における映像・音声継放送を実施して2年目となった。この実施にともない平常のチャペル礼拝にも全国から各学部学科推薦の講師を招くことになり、遠方からの講師には推薦学部学科主催の講演会を持ち、教職員と学生の出席者に翌日のチャペル礼拝への案内を行った。「西南女学院キリスト教教育特別講演会」には、キェルケゴール生誕200年を憶えて、キェルケゴール研究の第一人者である橋本淳先生を迎え、「真理とは何か？— 大学生キェルケゴールの問いから、キリスト教教育を考える —」というテーマでご講演いただいた。

「キリスト教教育研究会」は、若者への伝道をテーマに掲げて行う8年目の年となった。初めの6年間は、西南女学院とその地域とのかかわりに於いて、「若者への伝道」をテーマに会を開いてきたが、昨年度より、教育研究会総会での提案により、女学院のミッションデー講師による研究会を持つようになって2年目である。今年度の第1回目は、野々村昇氏（活水学院前院長、大学・短大ミッションデー講師）により、「若者をキリストへ— 学校と教会の協働」と題して発題がなされた。また第2回目は、中村千尋氏（JCFN日本代表主事）により、「海外邦人宣教と帰国者支援から続く世界宣教」と題して講演がなされた。

東日本大震災被災地支援として、大学・大学短期大学部、中学校・高等学校、及び、大学・大学短期大学部ハンドベルクワイヤーは日本バプテスト連盟へ募金等を送金し、また、大学・大学短期大学部は引き続き今年も、福島旭町キリスト教会附属こひつじ幼稚園にクリスマス募金より捧げた。

#### (2) 活動の概括

1. 教職員対象のプログラムとしては、例年通り、創立記念式、墓前祈祷会、教職員研修会、キリスト教教育特別講演会、クリスマスツリー点灯式、それに、新任オリエンテーション聖書学課、学院聖書学課（年5回）、教職員の朝の礼拝（毎日）、教職員祈祷会（中高月1回、本部大学月1回）を行った。新任オリエンテーション聖書学課は、例年と同様に終日プログラムで行った。教職員向けの学内報である広報課発行の「合邦」の2014年度の「今月の聖句」の欄の執筆は、学院宗教主任、大学・大学短期大学部宗教主事、宗教主事補に加え、理事の牧師の先生方3人がされた。

2. チャペル礼拝は、本学の根幹であり、礼拝の充実を全学の共通のテーマとして取り組んでいる。中高においては、昨年度から全体礼拝は、全教職員出席としているが、2011年度より、中高一貫教育に照らし、平常のチャペルもミッションマンズ・ミッションウィークも、すべて、中学・高校合同で行うことになっている。講師には、ミッションマンズは、谷本仰氏（南小倉バプテスト教会牧師）、東彩子氏（西南女学院大学短期大学部宗教主事補）、ロッキー&マーラ綾塚ご夫妻（アロマ・ミニストリーズ）を、ミッションウィークには吉田真司氏（別府国際バプテスト教会牧師）を迎えて行った。

大学・大学短期大学部においては、春季ミッションデー第一週は、野々村昇氏（活水学院前院長）、第二週は、清重尚弘氏（九州ルーテル学院院長・学長）を、また秋季ミッションデーでは、1週目は、麦野賦氏（伊集院幼稚園理事長、西南女学院評議員）、第二週は、中村千尋氏（JCFN日本代表主事）を講師に迎えて行った。また、大学・大学短期大学部合同クリスマス礼拝は、10年続いてアルモニーサンク「北九州ソレイユホール」を会場に、講師には佐藤彰氏（福島第一聖書バプテスト教会牧師）を迎えて行った。一昨年まで2年続けて行ったページェントを復活させた。また、後半では音楽中心のプログラムを行った。サテライト会場は、出席者の増加を願い、出席者間の空間の間隙を狭くし、礼拝する者同士としての一体感をより持てるように4会場を2会場に変えた。

クリスマス献金については、幼稚園・中高・大学短期大学部・大学、及び大学ハンドベルクワイヤーで、例年同様に、各々の献金先を予め決めて募金活動に取り組んだ。献金先としては、日本バプテスト連盟や、福島バプテスト教会「こひつじ幼稚園」などの献金先に、昨年続き「声なき者の友の輪」を加えた。

3. 生徒・学生のための教職員等による諸活動は、従来複数行ってきたが、学生の参加は殆どなかったのが実態であった。これを改善すべく、開催時間帯や、活動内容についての見直しを続けている。

4. 近隣諸教会との協力関係により、生徒・学生の教会訪問プログラムが行われた。またこれに関わる「教会案内」発行も例年通り行った。また、前述したキリスト教教育特別講演会、及び、キリスト教教育研究会を行った。「現代神学を学ぶ会」は、日本基督教学会九州部会が西南女学院で開催されることになったことから、この会に合流して行った。「牧師交流会」は、牧師交流会「世話人会」による企画により10年目を迎え、開会礼拝では説教者として、児玉一郎先生（日本バプテスト連盟北九州キリスト教会牧師）の奨励に続き、相互の良き交流がなされ、宣教へ向けての情報交換が行われた。これらの活動は「キリスト教教育研究会ニュースレター第八号」で報告した。3月の本研究会総会には牧師・教員等昨年同数の16名が出席し、年度を振り返り、次年度の方針を定めた。

5. 地域への開かれた活動としては、大学ハンドベルクワイヤーと高等学校のハンドベル部が教会、病院、公共施設、福祉施設などで、多くの地域奉仕を行った。その他、前述のようにキリスト教教育研究会、キリスト教教育特別講演会が行われた。

6. 教職員の主体的な活動として、基本的に、中高では、定例として月の第一火曜日朝に「祈祷会」が持たれ、大学・大学短期大学部では、教職員有志による「朝の集い」祈祷会が月の初日に持たれた。

### （3）2014年度の全体的評価

1. 2014年度の年間主題「み言葉に聞く」は、祈りは神に聞くことに始まるというユダヤキリスト教の伝統を念頭においたもので、この数年続いてきた一連の祈りのテーマの一つであった。イエス・キリストが私たちのただ中におられることを信じ、東日本大震災による被災者、および、病や苦難に直目している生徒・学生を覚え、主の働きを期待して祈ることも、すべて聖書に聞きつつなされるものであることを改めて確認する一年であった。

2. キリスト教教育の効果としては、中高では、例年と同様に、全体礼拝への全教職員出席が実現しており、自主的教会出席の生徒も皆勤者が多く、サマーキャンプ参加者は増加している。大学・大学短期大学部では、今年度から、マロリーホールから講義室へのチャペルの中継放送の2年目に至り、サテライト会場での教職員の出席者は初年度よりさらに増加した。聖書学課は、全所属長が奨励を行ない、全職員が本学の根幹を多角的に理解できる機会として提供できている。学院全体の課題である「キリスト教教育の理解力の高い教職員」の育成に繋がるよう、聖書からの直接的なメッセージを共に受け取る機会となる工夫が望まれる。

3. 2002年から関わっている「広島女学院大学の『平和学習』」に、昨年に続き2年連続で学生2名が参加し良き学びと交流の機会を得ることができた。「キリスト教センター便り」は、昨年に続き年間5回、季刊発行した。当初の発刊目的は「学内の情報のコミュニティー」となることであったが、2013年度はこれに加えて「学外への広報誌」として装丁も内容も刷新した。2014年度は内容のさらなる充実を目指した。

4. 地域諸教会との協力関係を見ると、2014年度は、「キリスト教研究会」・「現代神学を学ぶ会」・「牧師交流会」などにより、継続的な交流がなされ、相互理解の広がりや深まりも増し、学院と諸教会、また諸教会間との関係、若者伝道の課題とそれに向けての協力の姿勢がより蜜に形成されてきている。特に、「キリスト教教育研究会」においては、一昨年度のキリスト教教育研究会総会での提案にかかる、発題または講演は大学・大学短期大学部のミッションデー講師によるという路線で行われた。これにより、チャペルと教育研究会との共通項が生まれている。一昨年度実行したキリスト教関係の学会の会とキリスト教センターの活動との合流的開催による研究会は好評であり、このような試みを継続することが望まれていたが、2014年度は、この目標も達成した。今後、これらの諸活動を通して、一層、主にある地域の諸教会との絆が深くかつ強くなることが期待される。

□ 2014年度 学院年間主題・聖句

年間主題 「み言葉に聞く」

年間聖句 「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」  
(マタイによる福音書4章 4節)

月主題・聖句 (新共同訳)

月	主 題	聖 句
4月	学院の教育の原点	ローマ10章17節
5月	学院の教育の継承	伝道の書12章1節(口語訳)
6月	学院の女子教育	ローマ13章14節前半
7月	地域に仕える学院	マタイ5章13節前半
8月	平和	ヨハネ福音書14章27節
9月	基本的人権	ローマ15章1節
10月	環境と生活	イザヤ書44章3節
11月	世界にある格差を覚えて	マタイ福音書18章10節
12月	キリストの誕生	マタイ福音書1章23節
1月	キリストにある希望	ヨハネ福音書14章6節
2月	魂の深まり	ローマ5章3節後半～4節
3月	世界に向かってはばたく	マタイ福音書28章20節

□ 聖書学課 (全体)

全職員を対象とした唯一のプログラムである聖書学課が年5回行われている。実施は次のとおりである。(16:20～16:50 於:マロリーホール)

月日	奨励者	主題・聖書	司会	奏楽
4/17 (木)	学院宗教主任 古川 敬康	「感恩奉仕:御言葉に聞く」 ローマ10章17節	大学・大学短期大学部 宗教主事補 東 彩子	中高教諭 為頼 康子
9/18 (木)	大学・大学短期大学部学長 植田 浩司	「キリスト教実証の実験」 マタイ福音書6章33節	大学宗教主事 古川 敬康	保育科講師 植村 和彦
10/16 (木)	中学校・高等学校校長 村瀬 泉	「西南女学院の使命-魂の変容」 第一コリント4章6節	中高宗教部長 松下 範枝	中高教諭 為頼 康子
12/ 4 (木)	事務局長 向 雅彦	「そうだ 教会…」 コロサイ3章14節	大学・大学短期大学部 宗教主事補 東 彩子	中高教諭 佐野 智江
2/19 (木)	理事長 田中 綜二	「祈りに支えられて」 ヘブライ11章1～2節	学院宗教主任 古川 敬康	大学講師 文屋 典子

□ 各校の主な宗教教育

<p>○ 大学・大学短期大学部</p> <p>A. チャペル（学校礼拝）</p> <p>B. 特別行事</p> <p>（1）春季ミッションデー            大学短期大学部：（火）5月13日・20日            大学：（木）5月15日・22日</p> <p>（2）秋季ミッションデー            大学短期大学部：（火）11月4日・11日            大学：（木）11月6日・13日</p> <p>（3）クリスマス礼拝            12月18日（木）13:00～15:00            アルモニーサンク北九州ソレイユホール</p> <p>（4）送別礼拝            大学短期大学部：1月20日（火）            大学：1月22日（木）</p> <p>C. キリスト教学及びキリスト教的人間観（授業）</p> <p>D. その他の宗教活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハンドベルクワイヤー</li> <li>2. クリスマン学生の手</li> <li>3. キリスト教センター諸集会</li> <li>4. 朝の集い（早朝祈禱会 基本的に月初め）</li> </ol> <p>○ 幼稚園</p> <p>2014年 5月16日（金） 母の日礼拝            6月5日（木） 花の日礼拝            15日（日） 父の日礼拝            9月12日（金） 敬老礼拝            11月16日（日） シオン山教会子ども祝福式参加            14日（金） 収穫感謝礼拝            12月13日（土） クリスマス礼拝            16日（火） クリスマス祝会            21日（日） シオン山教会クリスマス合同            礼拝参加</p>	<p>○ 中学校・高等学校</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 礼 拝            クラス礼拝、放送礼拝</li> <li>2. 諸集会活動（中高合同）            小羊会 7:50～8:15            第1土曜日 清掃活動            第3土曜日 祈禱会            宗教委員会            金曜日 お昼休み</li> <li>3. 年間の対外的活動            施設訪問 12月19日「託寿館」(南小倉病院)            5月31日（土）「久山療育園」            参加人数 46名（中高合同）</li> <li>4. ミッションマンス（特別伝道月間）            中学校・高等学校合同            6月5日、13日、20日            （木）（木）（木）</li> <li>5. ミッションウィーク（特別伝道週間）            中学校・高等学校合同            10月16日（木）～18日（土）</li> <li>6. サマーキャンプ（中高合同）            7月22日（火）～24日（木）            ソラージュ日出            参加人数 45名</li> <li>7. クリスマス礼拝            中学校・高等学校合同            12月11日（木）</li> <li>8. 6年生のための特別礼拝            2015年2月23日（月）            塩屋優子牧師（ウエスレアン戸畑高峰教会）            ロウ記念講堂</li> </ol>
--	--

## 5. 学生・生徒・園児

### (1) 志願者数

2014(平成26)年5月1日現在

学 校 名		入学定員	入学志願者数		実入学者数		
			推薦	一般	推薦	一般	
大 学	保健 福祉 学部	看護学科	90	53 (2)	359 (5)	47 (2)	53 (2)
		福祉学科	80	40 (0)	247 (2)	40 (0)	67 (0)
		栄養学科	100	64 (0)	200 (0)	61 (0)	49 (0)
		計	270	157 (2)	806 (7)	148 (2)	169 (2)
	人 文学 部	英語学科	60	17 (0)	83 (0)	16 (0)	28 (0)
		観光文化学科	60	36 (1)	87 (2)	36 (1)	30 (1)
		計	120	53 (1)	170 (2)	52 (1)	58 (1)
		助産別科	16	10 (0)	18 (0)	9 (0)	5 (0)
		小計	406	220 (3)	994 (9)	209 (3)	232 (3)
		累計		1,214 (12)		441 (6)	
大 学 短 期 部	生活創造学科	100	30 (0)	30 (6)	30 (0)	7 (3)	
	保育科	150	79 (1)	75 (0)	77 (1)	27 (0)	
	計	250	109 (1)	105 (6)	107 (1)	34 (3)	
	累計		214 (7)		141 (4)		
高 等 学 校	一般中学より	80	2	53	2	16	
	西南女学院中学より	48	48		48		
	計	128	103		66		
中 学 校		80	88		41		
幼 稚 園		満3歳児 20 3歳児 32 4歳児 10 5歳児 若干	満3歳児 3 3歳児 18 4歳児 1 5歳児 0	満3歳児 0 3歳児 16 4歳児 1 5歳児 0			

【注】( )内は西南女学院高校からの志願者数・入学者数を内数で示す。

大学推薦入試には、AO入試の志願者数・入学者数を含む。

大学一般入試には、社会人入試、センター試験利用入試及び外国人留学生入試の志願者数・入学者数を含む。

短期大学部推薦入試には、AO入試の志願者数・入学者数を含む。

短期大学部一般入試には、特待生入試、社会人入試、センター試験利用入試の志願者数・入学者数を含む。

満3歳児2名は8月から1名、9月から1名の入園予定。

## (2) 在籍者数

学校・学科等		新 入 生	総 数	
			2014(平26).5.1 現在	2015(平27).3.31 現在
大 学	看護学科	100	391	391 (5)
	福祉学科	107	400 (1)	393 (1)
	栄養学科	110	397 (1)	386
	英語学科	44	183 (6)	175 (6)
	観光文化学科	66	278	276 (1)
	助産別科	14	14	14
	計	441	1,663 (8)	1,635 (13)
大 学 短 期 部	生活創造学科	37	75	75 (1)
	保育科	104	202	195
	計	141	277	270 (1)
中・高 4 5 6年		67	178	177 (1)
中・高 1 2 3年		41	110	110
幼稚園		17 (1)	80 (1)	80 (1)
合 計		707 (1)	2,308 (9)	2,272 (16)

(注) 休学者は在籍数の隣に( )を付して内数で示す。

## (3) 卒業生数

2015(平成27)年5月1日現在

2014(平26)年度卒業生		累 計	旧制女学校卒業生		累 計	
学 校 名	人 員		女 学 校			
幼稚園	27	3,572	女 学 校		2,147	
中 学 校	41	12,137	専門学校	英語科	87	
高 等 学 校	51	13,942	累計(203)	生活科	116	
大 学 短 期 大 学 部	(英 語 科)	-				
	生活創造学科	38				9,460
	保育科	94				10,416
	(食物栄養科)	-				7,865
	計	132				4,032
大 学	看護学科	92	31,773			
	福祉学科	89	1,562			
	栄養学科	87	2,286			
	英語学科	38	995			
	観光文化学科	75	292			
	人文学科	-	424			
	助産別科	14	388			
計	395	122				
合 計	646	6,069	合 計	2,350		
総 数 (卒業生総数)			69,843			

(注) 中学校卒業生41名の中、内部高校進学者数41名

## 6. 教職員組織

教職員数（2015（平成27）年3月1日現在）

	教員数	職員数	計
本部	1	11	12
大学・大学短期大学部	116	55	171
中学校・高等学校	38	2	40
大学短期大学部附属 シオン山幼稚園	9	1	10
計	164	69	233

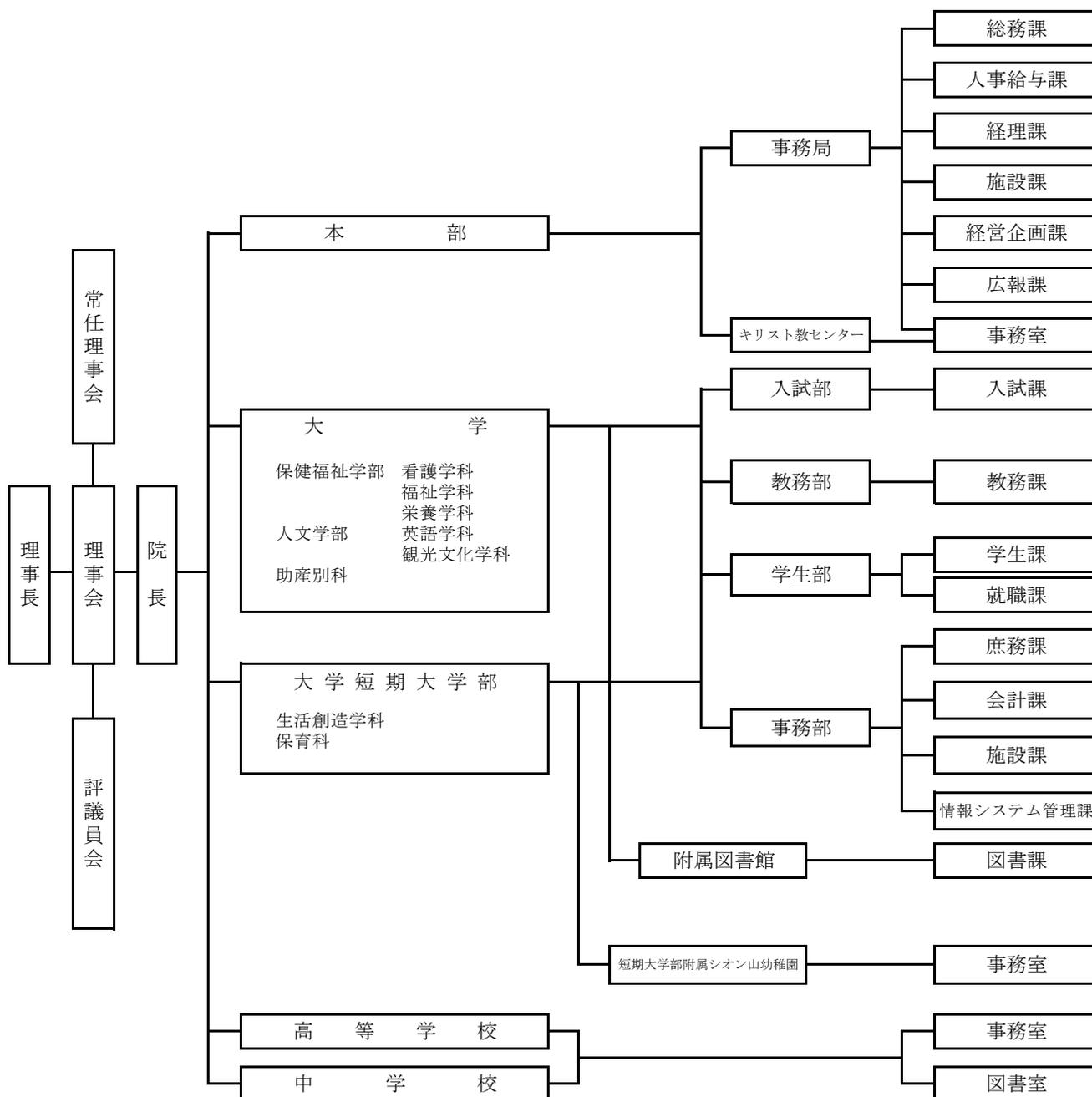
## 7. 役員・評議員数（2015（平成27）年3月1日現在）

理事（理事長 田中綜二）

定数	19名	現員	17名
監事	定数 2名	現員	2名
評議員	定数 41名	現員	37名

組織図

2015(平成27)年3月1日現在



## 8. 理事会議案及び決議

2014(平成26)年4月～2015(平成27)年3月

### 第1回 2014(平成26)年4月1日(火)

- |                |   |   |
|----------------|---|---|
| ・理事長の選任について    | 承 | 諾 |
| ・常任理事の任命について   | 承 | 認 |
| ・理事長職務の代理者について | 承 | 諾 |

### 第2回 2014(平成26)年5月28日(水)

- |                                   |   |   |
|-----------------------------------|---|---|
| ・2013(平成25)年度決算等について              |   |   |
| (1) 決算報告                          | 承 | 認 |
| (2) 事業報告                          | 承 | 認 |
| (3) 監事による監査報告                     | 承 | 認 |
| ・人事について                           | 承 | 認 |
| ・2015(平成27)年度大学及び大学短期大学部学納金について   | 承 | 認 |
| ・学長候補者選考委員会への出席者について              | 承 | 認 |
| ・日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の連帯保証人変更について | 承 | 認 |

### 第3回 2014(平成26)年9月26日(金)

- |                                  |   |   |
|----------------------------------|---|---|
| ・人事について                          | 承 | 認 |
| ・学校法人会計基準の一部改正に伴う諸引当資産の整理、統合について | 承 | 認 |
| ・2014(平成26)年度補正予算(案)について         | 承 | 認 |
| ・2015(平成27)年度予算基本方針(案)について       | 承 | 認 |
| ・学校法人西南女学院就業規則改正(案)について          | 承 | 認 |

### 第4回 2014(平成26)年11月26日(水)

- |                               |   |   |
|-------------------------------|---|---|
| ・人事について                       | 承 | 認 |
| ・学校法人西南女学院利益相反に関する指針(制定案)について | 承 | 認 |
| ・不動産の処分について                   | 承 | 認 |
| ・大学学生懲戒規程(制定案)について            | 承 | 認 |
| ・2015年度中学校・高等学校校納金について        | 承 | 認 |
| ・理事の辞任について                    | 承 | 認 |

### 第5回 2014(平成26)年12月17日(水)

- |                                  |   |   |
|----------------------------------|---|---|
| ・人事について(1)                       | 承 | 認 |
| ・任期満了に伴う次期大学及び大学短期大学部学長候補者選考について | 任 | 命 |
| ・任期満了に伴う学院宗教主任の推薦について            | 任 | 命 |
| ・人事について(2)                       | 承 | 認 |
| ・職員の非違行為に対する懲戒について               | 承 | 認 |

第6回 2015(平成27)年3月24日(火)

- ・学校法人西南女学院経理規程改正(案)について
- ・調達規程改正(案)について
- ・固定資産及び物品管理規程改正(案)について
- ・2015(平成27)年度事業計画及び当初予算(案)について
- ・人事について
- ・西南女学院大学学則改正(案)について
- ・学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律及び学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行に伴う 大学・大学短期大学部の内部規則等の制定及び改廃について

承 認  
承 認  
承 認  
承 認  
承 認  
承 認  
承 認



## 第二部

### 事業の概要・財務の概要



# 1. 事業及び決算の概要

## ○ 事業について

2014年度は、教育研究における重点分野、学生生徒の人員等について事業計画を立て予算を編成し2013年度第3回評議員会及び第5回理事会において承認を受けて実施いたし、次の事業について計画どおりに完了することができました。

〔法人本部〕

- ・ 2号館建物耐震診断調査
- ・ 第一体育館建物耐震診断調査
- ・ 行政指導に基づくPCB廃棄物処理

〔大学・大学短期大学部〕

- ・ 情報処理演習室リプレース工事
- ・ 情報処理演習室椅子の取替
- ・ マロリーホール暗幕取替工事
- ・ 3号館窓パッキン修繕工事
- ・ 6号館屋上十字架モニュメント補強工事
- ・ 6号館2階講義室ブラインド及び暗幕取替工事
- ・ 6号館・図書館・7号館トイレの洋便器のウォシュレット設置
- ・ 7号館西側屋外スロープ手摺補強工事
- ・ 9号館2階準備室空調機取替工事
- ・ 音楽館1階2階トイレ改修工事
- ・ 各所消火ホース取替（交換期限超過物対象）
- ・ 保護者向け広報誌
- ・ 1号館3階・5階講義室机・椅子の取替
- ・ 図書館データベースの拡充
- ・ 図書館2階床カーペットの張替え
- ・ 進学アクセスオンライン（学生募集業務支援システム）使用
- ・ 大学保健福祉学部看護学科・福祉学科開設20周年記念講演会開催

〔中学校・高等学校〕

- ・ コンピュータ室のパソコン及び周辺機器の更新
- ・ 第一会議室及びカウンセリング室の空調機設置工事

〔幼稚園〕

- ・ ホールの放送設備一式

## ○ 決算について（千円以下四捨五入の関係で合計など数値が計算上一致しない場合があります。）

本法人の会計年度は、寄附行為第39条に規定されており、2014年度決算における会計期間は、2014年4月1日から2015年3月31日までの1年間としています。また、当決算は、2013年9月の予算基本方針承認、2014年3月の当初予算承認、2014年9月の補正予算承認を経て執行されてまいりました結果を私立学校法及び学校法人会計基準に則り、資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表により表しています。

### （1） 資金収支計算書

この計算書は、企業会計のキャッシュ・フロー計算書に相当するものです。2015年度から、改正学校法人会計基準の施行により、新たに「活動区分別収支計算書」が加わり、企業会計と同様に資金情報の充実が図られることとなっています。

資金収支計算書は、①毎会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにすること及び②当該会計年度における支払資金（現預金）の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的とし、本法人の財政規模を表すものです。

当年度は、前年度繰越支払資金6億9,861万円に当年度収入合計42億8,633万円を加えた49億8,494万円が資金収入合計となりました。この資金収入合計から当年度支出合計44億6,794万円を控除した次年度繰越支払資金は、5億1,700万円（期首比1億8,161万円減少）となりました。

## (2) 消費収支計算書

消費収支計算書は、一会計年度の消費収入及び消費支出の内容と収支の均衡状態を明らかにすることにより学校法人の経営状況を表すものです。

この計算書は企業会計の損益計算書と類似しますが、企業会計のような区分利益（「営業利益」「経常利益等」）がなく、帰属収入合計から基本金組入額を控除する構造となっている点が異なります。なお、2015年度からは、改正学校法人会計基準の施行により、「事業活動収支計算書」となり、「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」という三区分別経理が導入され、基本金組入額もいったん当年度の収支差額を出してから最後に差し引く形になります。

消費収入とは、帰属収入（負債ではなく自己資金に該当する収入）から基本金（学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入から組み入れた金額：学校法人会計基準第29条）に組み入れられた額を控除した収入であり、消費支出とは、学校法人が教育研究等のサービスや管理を行うために必要な運営費用に退職給与引当金繰入額や減価償却額などの非資金を加えたものです。

当年度の帰属収入は、学生生徒等納付金から雑収入までの合計32億4,004万円で、前年度に比べ3,951万円減少しました。また、基本金組入額は、教育研究活動に使用する固定資産の取得価額及び奨学基金等の合計1億1,521万円としました。その結果、消費収入は、31億2,483万円で、前年度に比べ524万円減少しました。

消費支出は、人件費から徴収不能引当金繰入額までの合計33億5,510万円で、消費収入から消費支出を差し引いた当年度消費収支差額は、2億3,027万円の支出超過となりました。これに前年度からの前年度繰越消費収入超過額1億1,472万円及び当年度基本金取崩額316万円を加え、翌年度に繰り越される翌年度繰越消費支出超過額は1億1,239万円となりました。

## (3) 貸借対照表

企業会計では、借方に資産、貸方に負債と純資産を表示していますが、学校会計では、貸方に負債と基本金そして消費収支差額を表示しています。

また、企業会計では「資産－負債＝純資産」で、純資産を資本といますが、学校会計では「資産－負債＝正味財産」で資本という概念はありません。正味財産は、基本金と消費収支差額の合計額になります。

資金収支計算書や消費収支計算書が一会計年度の収支状況を表しているのに対して、貸借対照表は、一会計年度末における学校法人の財政状態（財産の状態）を表示する計算書であり、資産、負債、基本金及び消費収支差額の項目があります。このうち基本金と消費収支差額の合計額が学校法人の自己資金（正味財産）になります。

### ・資産の部

「固定資産」は、107億9,589万円（内訳は土地、建物、構築物などの有形固定資産52億7,166万円及び長期貸付金、諸引当特定資産などのその他の固定資産55億2,423万円）、「流動資産」は、現金預金5億1,700万円（資金収支計算書次年度繰越支払資金）に未収入金、貯蔵品、前払金などを加え7億6,125万円。以上、資産の部合計（総資産）は、115億5,714万円となりました。

### ・負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

返済期限が1年を超える長期借入金を含む「固定負債」9億8,617万円及び返済期限が1年以内の短期借入金を含む「流動負債」6億8,325万円の合計により総負債は、前年度末に比べ7,143万円減少し、16億6,942万円。基本金当期末残高は、100億0,011万円となりました。

自己資金は、基本金の部合計100億0,011万円と消費収支差額の部合計（消費収支計算書翌年度繰越消費支出超過額）1億1,239万円の合計で98億8,772万円となりました。

### ・貸借対照表前年比

資産総額は1億8,649万円減少、負債総額は7,143万円減少。自己資金は前年度末100億279万円、当年度末98億8,772万円で1億1,507万円の減少となりました。なお、当年度末の自己資金構成比率は、85.6%（前年度85.2%）です。

## 2. 財務の概要 (主な2014年度予算の執行状況)

当期の予算の執行状況について、その概況を報告いたします。なお、金額は千円未満を四捨五入して示しています。

### (1) 資金収支計算

資金収支計算は、次の目的に基づいて作成しています。

- ① 毎会計年度、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにする。
- ② 当該会計年度における支払資金(現預金)の収入及び支出のてん末を明らかにする。

資金収支計算について、その主な内容をご報告いたします。

#### 【科目の説明です。】

学生生徒等からの授業料や入学金などです。科目等履修料、聴講料も含まれます。

国や地方公共団体からの助成金です。

翌年度に入学予定の学生生徒等からの授業料や入学金などです。

・長期、短期の貸付金の回収額。  
・特定の目的のために積み立てた預金等を解約した場合の収入額。などです。

収入として計上したが未収入となっているものや前受金収入として前年度までに既に受け入れている収入を差し引くことにより、資金の収入額を調整するためのものです。

土地、建物、構築物を取得するための支出です。

教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書などを取得するための支出です。

より良い教育研究サービスを提供するために、資金を積み立てるための支出です。

支出として計上したが未払いとなっているものや、前払支払支出として前年度までに支払っている経費を差し引くことにより、資金の支出額を調整するためのものです。

### 資金収支総括表

(収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,388,443	2,410,120	△ 21,677
手数料収入	42,270	38,962	3,308
寄付金収入	52,106	51,795	311
補助金収入	439,844	465,282	△ 25,438
資産運用収入	20,040	20,423	△ 383
資産売却収入	0	5,423	△ 5,423
事業収入	41,878	42,144	△ 266
雑収入	91,858	206,154	△ 114,296
前受金収入	569,867	463,600	106,267
その他の収入	1,426,057	1,283,960	142,097
資金収入調整勘定	△ 586,450	△ 701,536	115,086
当年度資金収入合計	4,485,913	4,286,327	199,586
前年度繰越支払資金	698,613	698,613	
収入の部合計	5,184,526	4,984,940	199,586

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	2,297,587	2,456,147	△ 158,560
教育研究経費支出	599,078	548,871	50,207
管理経費支出	171,572	147,613	23,959
借入金等利息支出	2,507	2,507	0
借入金等返済支出	83,528	83,528	0
施設関係支出	20,541	24,089	△ 3,548
設備関係支出	110,369	97,410	12,959
資産運用支出	189,898	192,306	△ 2,408
その他の支出	1,143,682	1,000,264	143,418
資金支出調整勘定	△ 111,721	△ 84,794	△ 26,927
当年度資金支出合計	4,507,041	4,467,941	39,100
次年度繰越支払資金	677,485	516,999	160,486
支出の部合計	5,184,526	4,984,940	199,586
当年度資金収支差額	△ 21,128	△ 181,614	160,486

・国以外、県・市からも多数の助成金の交付を受けました。  
・これまで未活用であった土地・建物の一部を売却したことによる収入を計上しています。  
・地域が大学に求める要望をしっかりと受け止め連携を深める事業を進めており、その一環として認定看護管理者教育課程「ファーストレベル、セカンドレベル及び認定看護師教育課程「集中ケア」」を開設し、看護師教育を継続的に実施しています。

・大学・大学短期大学部では情報処理演習室のリリース、普通教室のアクティブラーニング対応の机、椅子等の入替、図書館データベースの拡充、音楽館トイレへの改修、屋外スロープ手摺補強工事等を実施し、中学・高校でも、コンピュータ室のパソコン及び周辺機器の更新、カウンセリング室等の空調機の設置を実施し、幼稚園においてはホールの放送機器の入替を実施しました。このように教育・研究の充実及び学生・生徒・園児の安全確保のための施設・設備の改修を行いました。  
・認定看護管理者教育課程「ファーストレベル、セカンドレベル及び認定看護師教育課程「集中ケア」」実施経費、他に各校における教育研究の実施に伴う諸経費、建物耐震診断費等を支出しました。

\* 上記の金額は千円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合があります。  
なお、以下の表についても同様です。

(2)消費収支計算

消費収支計算は、次の目的に基づいて作成しています。

- ①毎会計年度、当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにする。
- ・消費収入とは、帰属収入(負債とならない収入)から基本金に組み入れられた額を控除した収入です。
- ・消費支出とは、会計年度中に消費する用役の対価及び減価償却額等の非資金を加えたものです。

消費収支計算について、その主な内容をご報告します。

消費収支総括表

(消費収入の部) (単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,388,443	2,410,120	△ 21,677
手数料	42,270	38,962	3,308
寄付金	52,106	53,471	△ 1,365
補助金	439,844	465,282	△ 25,438
資産運用収入	20,040	20,423	△ 383
資産売却差額	0	3,483	△ 3,483
事業収入	41,878	42,144	△ 266
雑収入	91,858	206,154	△ 114,296
帰属収入合計	3,076,439	3,240,039	△ 163,600
基本金組入額合計	△ 178,958	△ 115,209	△ 63,749
消費収入の部合計	2,897,481	3,124,830	△ 227,349

(消費支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	2,321,717	2,472,415	△ 150,698
教育研究経費	765,194	714,108	51,086
(うち、減価償却額)	(166,116)	(165,965)	(151)
管理経費	179,275	155,628	23,647
(うち、減価償却額)	(7,703)	(7,703)	(0)
借入金等利息	2,507	2,507	0
資産処分差額	0	9,986	△ 9,986
徴収不能引当金繰入額	0	460	△ 460
消費支出の部合計	3,268,693	3,355,104	△ 86,411

帰属収支差額	△ 192,254	△ 115,065	△ 77,189
帰属収支差額比率(注1)	-6.2%	-3.6%	-
当年度消費収支超過額	△ 371,212	△ 230,274	
前年度繰越消費収支超過額	114,720	114,720	
基本金取崩額	921	3,168	
翌年度繰越消費支出超過額	255,571	112,386	

注1 帰属収支差額比率=帰属収支差額÷帰属収入×100

【科目の説明です。】

学校法人への寄付による収入です。「消費収入の部」には現物による寄付も含まれます。

学校法人が提供した教育・研究等の対価として受け取る収入で、負債とならない収入です。

良好な教育環境を維持するための施設・設備等の額であり、帰属収入から差し引く金額です。

教職員に支払われる給与などです。

学生生徒等の教育研究のために支出する経費です。

総務、人事、財務、経理等の業務に要する経費、教職員の福利厚生のための経費などです。

学生生徒等納付金の納付困難、貸付金の回収不能に備え、見込額を引当金として準備します。

学校法人が使ったお金または用役に対して支出した金額です。

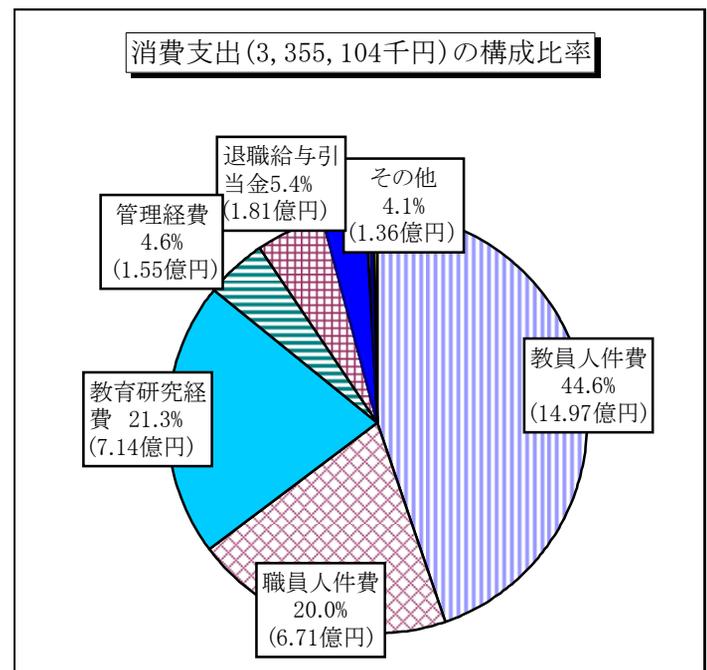
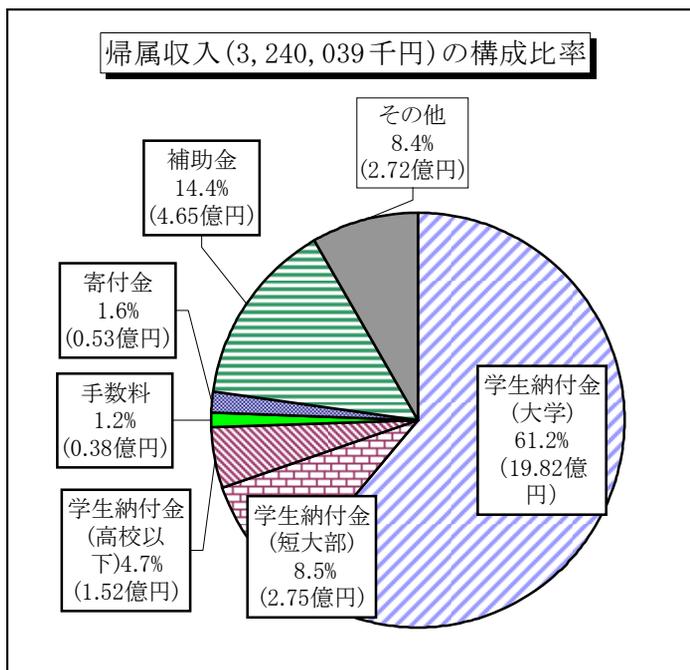
帰属収入から消費支出を差し引いたものであり純資産の増加を示します。

・学生生徒等納付金は収入(帰属収入)の74.4%を占めています。

・人件費には収入(帰属収入)の76.3%が充てられています。

・選択定年制度適用者が増加しましたので、消費支出の部合計が予算を上回りました。

・当期の帰属収支差額は予算に対して、金額では7,718万円、比率では2.6ポイント改善しましたが、当年度の消費収支は2億3,027万円の支出超過となり、基本金取崩額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は1億1,238万円となりました。



(3) 貸借対照表

① 貸借対照表とは、年度末における学校法人の財政状態(財産の状態)を表示する計算書であり、資産・負債・基本金及び消費収支差額の項目があります。

- ・資産とは、教育研究活動に使用される学校法人の財産です。
- ・負債とは、将来返済しなければならない債務です。
- ・基本金及び消費収支差額は、返済の必要のない学校法人の資金総額(正味財産)です。

貸借対照表について、前年度末からの増減の主な理由を報告します。

【科目の説明です。】

貸借対照表

資産の部		(単位:千円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定資産	10,795,894	10,866,971	△ 71,077	・大学・大学短期大学部音楽館1階の改修、5号館1階ラウンジ等の空調機の取替、中学・高校カウンセリング室等に空調機を設置しました。
有形固定資産	5,271,662	5,332,260	△ 60,598	
土地	708,623	710,486	△ 1,863	
建物	3,061,059	3,163,364	△ 102,305	
構築物	212,982	223,753	△ 10,771	
教育研究用機器備品	210,491	159,293	51,198	
その他の機器備品	4,053	6,119	△ 2,066	
図書	1,074,454	1,069,245	5,209	
その他の固定資産	5,524,232	5,534,711	△ 10,479	
電話加入権	4,450	4,450	0	
長期貸付金	7,468	58,347	△ 50,879	・大学7号館西側屋外入ロブにアルミ手摺を設置しました。
諸引当特定資産	5,491,076	5,447,699	43,377	・返済期限が1年以内となった貸付金を短期貸付金に振替えました。
出資金	20,174	20,174	0	・年度末退職者への退職金財団、県私学教育振興会からの資金交付金、県からの助成金等を未収入金として計上しています。
敷金・保証金	18	18	0	
ソフトウェア	0	1,931	△ 1,931	
長期前払金	1,046	2,092	△ 1,046	
流動資産	761,247	876,661	△ 115,414	
現金預金	516,999	698,613	△ 181,614	
未収入金	187,903	171,376	16,527	
貯蔵品	2,178	1,653	525	
前払金	1,619	1,946	△ 327	
立替金	2,477	3,006	△ 529	
仮払金	71	67	4	
短期貸付金	50,000	0	50,000	・返済期限が1年以内となった貸付金を長期貸付金から短期貸付金に振替えました。
合 計	11,557,141	11,743,632	△ 186,491	
負債の部、基本金の部、消費収支差額の部				
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定負債	986,171	1,018,960	△ 32,789	・情報処理演習室のパソコン等を5年リースにて取得。総支払額が300万円以上のため、資産(備品)扱いとしました。これにより、2016年度以降の未払相当額を長期未払金として計上しました。
長期借入金	48,880	127,536	△ 78,656	
退職給与引当金	878,395	862,128	16,267	
長期未払金	58,896	29,296	29,600	
流動負債	683,245	721,882	△ 38,637	
短期借入金	78,655	83,528	△ 4,873	
未払金	53,248	44,287	8,961	
前受金	463,600	513,173	△ 49,573	
預り金	66,441	64,164	2,277	
修学旅行費預り金	21,301	16,730	4,571	
計	1,669,416	1,740,842	△ 71,426	
基本金	10,000,111	9,888,070	112,041	
消費収支差額	△ 112,386	114,720	△ 227,106	
合 計	11,557,141	11,743,632	△ 186,491	
(参考)				
正味財産	9,887,725	10,002,790	△ 115,065	
※正味財産＝資産－負債＝基本金＋消費収支差額				
減価償却額の累計額	4,428,848	4,300,533	128,315	
基本金未組入額	207,658	249,499	△ 41,841	

校地、校舎、体育館などの建物及び建物附属設備(空調など)の額のことです。

教育研究のために使用される機械設備などの額です。

学生生徒等に貸与している奨学金の額のことです。

特定の目的のために使用する資産のことです。

現金及びすぐに引き出すことのできる預貯金のことです。

決算日(3月31日)における退職資金交付額、補助金額等の未収額です。

返済期限が1年以上の借入金のことです。

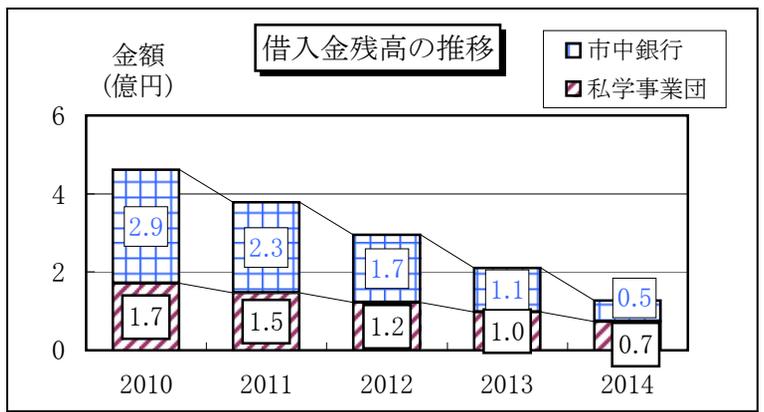
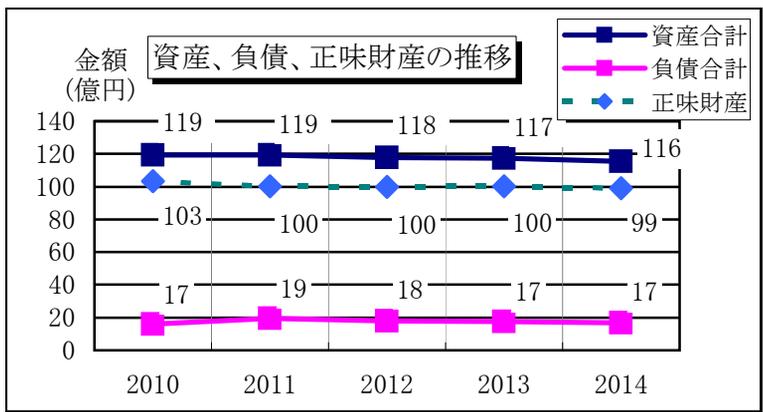
2014年度末に教職員全員が退職した場合に支払われる退職金の見積額のことです。

返済期限が1年以内の借入金です。

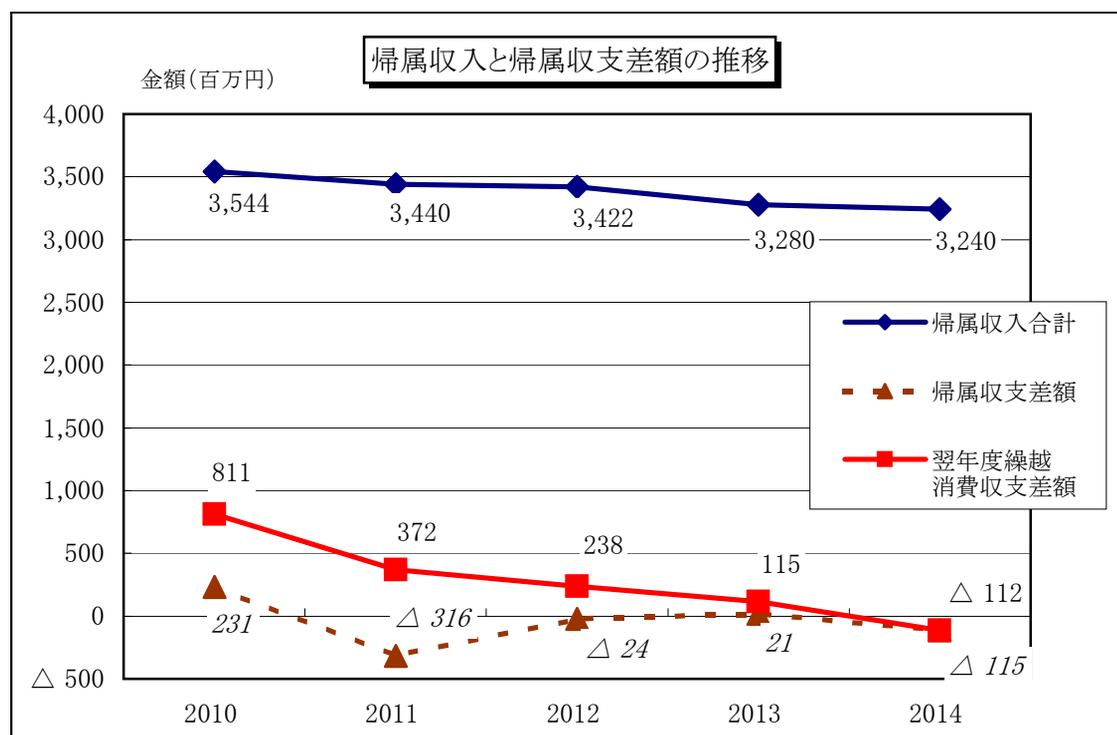
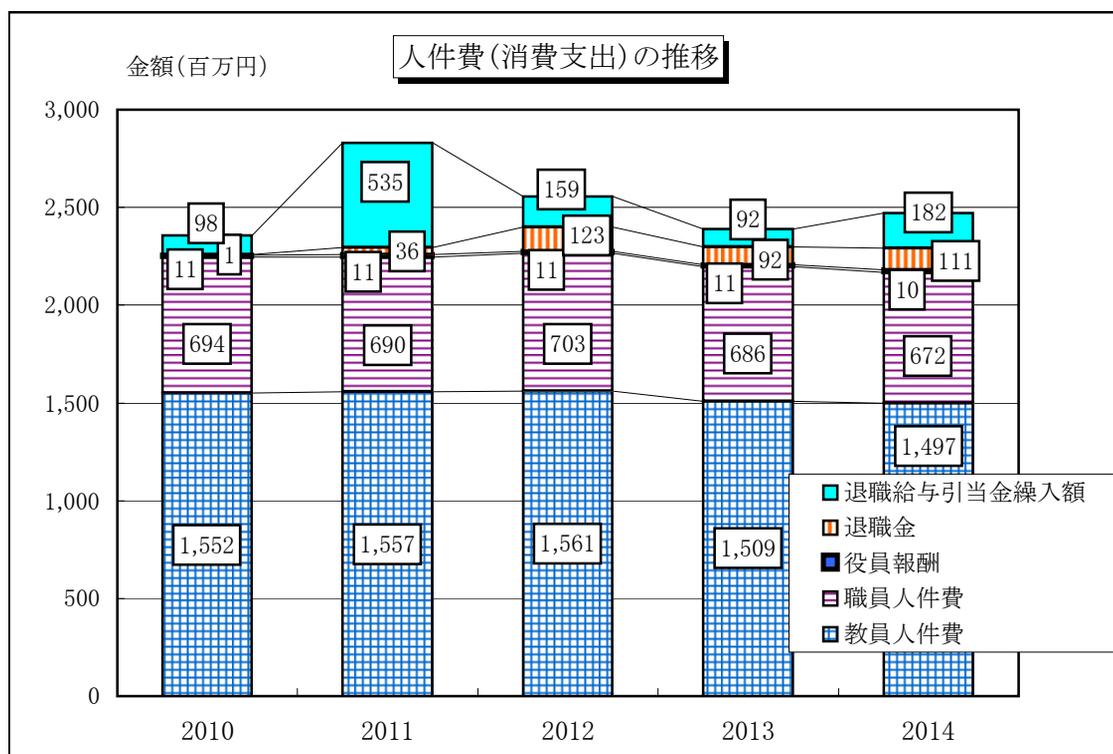
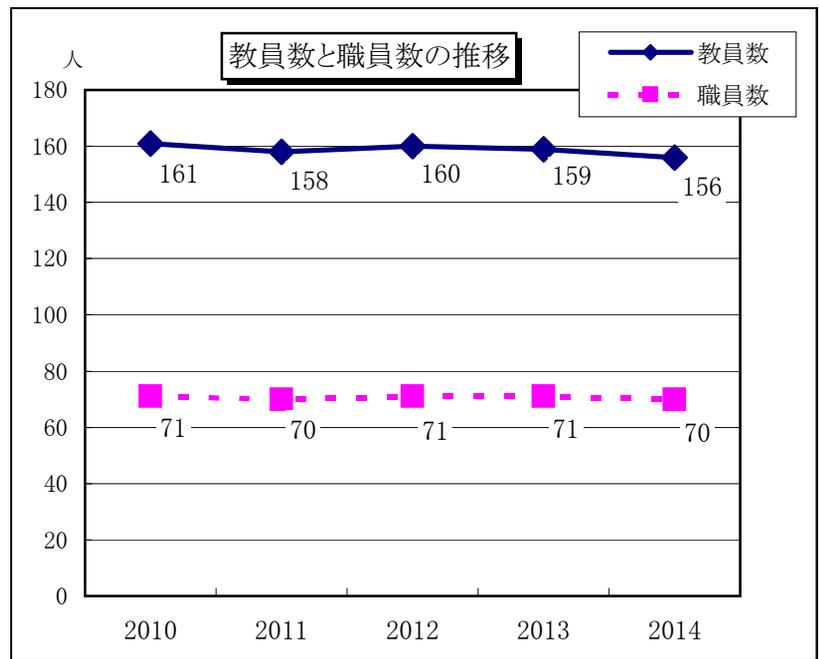
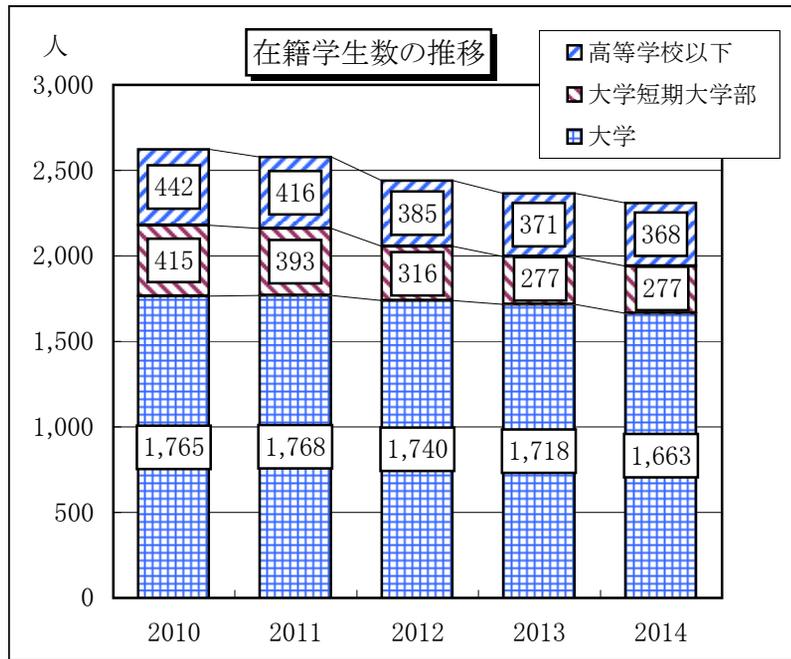
翌年度に入学する学生生徒等から受け入れた授業料や入学金などのことです。

財産的な基盤を確保する額のことです。学校法人を安定的かつ持続的に経営していくために必要な額です。

資産から負債と基本金を差し引いた額です。プラスは収入超過を、マイナスは支出超過を表します。



(4) 学生数・財務比率などの推移



※帰属収支差額=帰属収入-消費支出

